

# ミハル通信「CATV監視装置」が最高賞の大賞を受賞

神奈川県と神奈川新聞社が主催する「第33回神奈川工業技術開発大賞」の最高賞である大賞に、ミハル通信の「CATV監視装置」など2社の製品が選ばれた。10月18日に同県庁で開催された表彰式では、ミハル通信(株)の二ノ宮隆夫代表取締役社長と尾花毅執行役員ビジネステクノロジーセンター長が、黒岩祐治神奈川県知事から表彰状とトロフィーを授与された。

同賞選考委員会委員長の関口隆・横浜国立大学名誉教授は講評で、「(受賞した製品は) いずれも自社の有する技術をベースにして時代のニーズに応えるべく開発された素晴らしいもので、神奈川県のパワーを示すものとして大いに誇れるものと思う」と評価。大賞を受賞したミハル通信の「CATV監視装置」に関しては、「FM、地上デジタル、BS、CSに対して全チャンネルの音声・映像などの障害原因の特定と、短時間での切り替え、復旧を可能とし、受信不可、画面静止、画質劣化を監視して緊急対応ができる小型・安価な開発品だ。ケーブルテレビの普及に伴い放送停止の監視、バックアップ対策が喫緊の課題となっている現代のニーズに、システム技術の優



表彰式で黒岩祐治神奈川県知事(右から2人目)と神奈川新聞社の倉田昭人常務取締役(一番右)から大賞の表彰状とトロフィーを授与された、ミハル通信(株)の二ノ宮隆夫代表取締役社長(左から2人目)と尾花毅執行役員ビジネステクノロジーセンター長(一番左)。

大賞を受賞した  
ミハル通信「CATV監視装置」



位性を活かして応えるものとして高く評価された」と受賞理由を述べた。

神奈川工業技術開発大賞は同県内の中堅・中小企業が開発した優れた技術・製品を表彰するもので、昭和59年度から実施している。選考は予備選考と本選考の2段階で行われ、外部有識者から構成される本選考委員会では、候補製品について技術の革新性や社会貢献などについて審議し、投票で大賞など各賞を決定した。

表彰式で黒岩知事は、「(受賞した製品は) 社会のニーズをしっかりと踏まえ、さまざまな工夫をして技術的な課題を克服し、見事に製品化に結びつけている。神奈川の企業の技術力の高さと旺盛なチャレンジ精神を改めて実感し、大変心強く思っている」と称えた。神奈川新聞社の倉田昭人常務取締役は受賞製品について、「次世代社会を支える技術をさらにレベルアップし、可能性を膨らませるものばかりだ。社会の不満・

不安の『不』を取り除くために、技術を磨きあげて付加価値を高め、逆に満足・安心につなげている」と指摘した。

今年度同賞の選考対象となった製品の分野は、エレクトロニクス、ソフトウェア、一般機械、精密機械、土木・建設、環境、化学など多岐にわたる。しかも神奈川県は高い技術力を持った有力な中堅・中小企業が多数事業展開している「激戦区」だ。その中で「技術の革新性や社会貢献」が選考基準となる同賞の最高賞をミハル通信の「CATV監視装置」が受賞したことは、情報インフラとしてのケーブルテレビの重要性和、それを支える「CATV監視装置」の技術力が極めて高く評価されたことを示している。同製品は10月31日から東京ビッグサイトで開催される「産業交流展2016」の神奈川県産業技術センターのブースで、同賞大賞受賞製品として展示される。

(取材・文: 渡辺 元・本誌編集部)



10月18日に神奈川県庁で開催された表彰式では、大賞2社、ビジネス賞2社、奨励賞3社が表彰された。ミハル通信とともに大賞を受賞したのは、インフィニテグラ(株)の「様々な環境下での開発ツールを備えた安価・小型のサーマルカメラ」。